

慶應義塾大学 文学部

仏文学専攻

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

仏文学専攻では、フランス語およびフランス文化を通じて、学生諸君が社会的・文化的事象を多角的にとらえる能力と、高度で実践的な語学力を身に着けることを目指し、目標達成のために効果的なカリキュラムを提供する。専門科目は基礎コースと専門コースに分かれ、2年次の学生を対象とした基礎コースでは徹底した少人数授業によって語学力の向上を目指す一方、フランス文化全般を対象とした講義科目によって、個々の学生が関心分野と出会う手助けをする。専門コースでは、基礎コースの学修成果を踏まえ、「フランス語学演習」と「フランス語表現演習」で語学力のさらなる向上を図るとともに、近世から現代にいたるフランスおよびフランス語圏の文化を視野に入れ、狭義の文学を超えた文化全般の研究に取り組む。

一方通行になりがちだった旧来の語学教授法を廃して、少人数授業を展開するのも、語学学習の総仕上げとして海外留学の機会を広く提供しているのも、上記の目標達成を確実にするためであり、頻繁な小テストや課題の提出を学生に義務づけ、その内容について教員がコメントすることで、学習成果の把握と、きめ細かな指導が可能となる体制を築いた。当専攻では専門課程3年間の総仕上げとして卒業論文の執筆を4年生全員に課しているが、専門分野が多岐にわたる専任スタッフの知見を生かし、各分野の先端的な研究成果に触れてもらうため、常時7～8の研究会（少人数ゼミ）を展開して、学生の多様な関心に対応できる態勢を整えている。また、基礎コースと専門コースの区別は、フランス語圏諸国からの帰国生や、大学入学以前にフランス語の学習歴がある者についてはこれを柔軟に運用し、2年次から専門コースの履修を認めることで在学生の多様性を尊重している点も当専攻の特徴として、ここでは是非とも強調しておきたいと思う。